

# ブラゼルトンの新生児行動評価時の母親の反応

草野美根子<sup>1</sup> 穠山富太郎<sup>1</sup> 鶴崎 俊哉<sup>1</sup> 内海 滉<sup>2</sup>

**要 旨** 新生児の行動評価尺度 NEONATAL BEHAVIORAL ASSESSMENT SCALE (以下 NBAS) を用いて、新生児 20 例の行動を評価した。同時にまた、検査中の母親の反応を観察し、母親のほぼ全例に赤ちゃんに対する関心がみられた。

長大医短紀要 4 : 109-112, 1990

**Key Word** : 新生児の行動評価, 新生児の能力, 母親の反応,  
新生児の発達

## <はじめに>

ブラゼルトンによる新生児の行動評価尺度<sup>1)2)3)</sup> (以下 NBAS) は、単なる新生児の評価ではなく、常に相互作用の過程における新生児の評価である。又、この尺度は外部の刺激に対する新生児の生理的な統御能力を評価するものである。現在、NBAS を用いて加藤・穠山ら<sup>4)5)6)</sup> は、新生児の発達を縦断的に捉えた調査を実施している。NBAS は、臨床の医師や助産婦・看護婦の間でも少しずつ応用されつつある<sup>7)8)</sup>。今回、20 例の新生児に対して NBAS を用いた新生児の行動評価を次のような目的で実施した。母親の傍らで NBAS を行うことにより、新生児の能力や個性を母親に気づいてもらうこと、また新生児の行動やストレスサインを知ることにより、母親の児の行動に対する理解を深めること、母親の児をみる目や愛情が更に児に注がれるように促すことである。これは、母親や家族

が児の行動を中心に、更に協力的関係を確立することにつながり、新生児のよりよい発達への手助けとなると考えられる。そこで今回、NBAS 検査中の母親の反応を上記の目的に照らして観察した。

## <対象と方法>

1. 対象は健康な生後 2～6 日目の新生児とその母親で表 1 に示す通りである。
2. 検査は、必ず母親同伴で行い、母親がリラックスした状態で参加できるよう母親の病室または新生児室の片隅で行った。

表 1 対象とした新生児の内容

性 別	男児 : 15人 女児 : 5人
生下時体重	平均 : 3238 g
アプガール点	平均 : 9.2点
栄 養	母乳 : 6人 混合 : 11人
出生順位	第1子 : 9人 第2子 : 11人

1 長崎大学医療技術短期大学部

2 千葉大学看護学部

3. 検査は授乳後60分を経過し、授乳と授乳の間の時間を選んで実施した。

NBASは37の行動反応の評価と20の反射の項目により構成されている。この検査は、各新生児の最高の行動能力を評価するものである。誕生時、新生児に単一の簡約した得点を与えたくないというブラゼルトンの考えから、NBAS各項目のスコアは1点や9点で最高のものであれば、5点で最高のものである。

評価には20分～30分を要し、検査は次の手順で行った。

第一に、母親に対して看護婦長からNBASの説明と実施の承諾をお願いした。第二に母親と面会し検査目的を説明した。第三に、説明しながらNBASを実施し、第四に検査中と終了後に母親からの質問に答えた。最後に検査を採点しコメントを記載した。

主な検査内容と手順は次の通りである。最初に新生児が眠っている状態を2分間観察し、児の状態をチェックし、状態2(表2)で慣れ現象(1. 光刺激, 2. ガラガラ刺激, 3. ベル刺激, 4. 足底圧刺激)から評価を開始する。

次に、足底把握反射・バビンスキー反射、足クローヌス反射を評価したところで衣服を脱がせ、他動運動による全身の筋緊張を評価する。更に、把握反射、座位への引き起こし反応を観察し、児を立位にし支持反応、自動

歩行、台乗せ反応、側彎反射の観察のあとに、抱いて抱擁テストを行なう。この間の身体の筋緊張度も記載する。

通常、この段階で回転検査を実施し、非生命および生命的刺激による方位反応を評価する。もし、児が傾眠状態やぐずり状態へ移行し、敏活な状態を維持できなければ、より組織化された行動を誘発する目的で前庭刺激を加えたり、過剰な運動を抑制する目的で毛布などで児を包みこむ必要がある。

方位反応の刺激には、視覚刺激、聴覚的刺激および両者の重複刺激があり、視覚刺激は、人間の顔や赤いボールを児の顔から20～30cm離れた距離におき、聴覚刺激は視野外の位置から与える。水平方向への追視運動が誘発されれば、更に垂直方向に動かし児の反応をみる。次に児を腹臥位にし、匍匐反応を観察する。

ブラゼルトンの新生児行動評価では、状態を6段階に区分けし(表2)、状態の幅やその変化から、状態に対する児の調整能力をみることが一つの重要な評価項目となっている。(興奮の頂点、状態向上の迅速性など)。

上述した評価過程で状態5, 6に達した場合、児の自己鎮静能力と児がいかになだめられるかを評価する。

最後に防御反応、緊張性頸反射、モロー反射を観察する。評価の全過程を通して、運動

表2 6段階の状態区分

睡眠状態	
状態1	: 規則的間隔で起こる驚愕または攣動的運動を除いて自発的活動がなく眼を閉じ、規則正しい呼吸での深い眠り。
状態2	: 眼を閉じた浅い眠り。急速な眼球運動が閉じた眼瞼を通じてしばしば観察される覚醒状態
覚醒状態	
状態3	: 眠そうなまたは半居眠り状態。眼は開けているが、鈍く、重たい瞼をしているか、閉じて瞼がびくびく動いている。活動レベルは変化しやすく、散発的な軽度の驚愕運動が時々起こる。
状態4	: 輝きのある目つきをした敏活な状態
状態5	: 目は開けている。四肢を突き出すような運動と二、三の自発的驚愕運動さえ伴ってかなりの活動性がある。この状態で短くぐずって泣く
状態6	: 啼泣状態

の成熟度、活動性、状態の易変化性、振戦や驚愕の回数などを評価する。

スコアリングに際しては、補足的評価として、児の魅惑度、評価時の状況、刺激の必要度を記載する。

### <結果および考察>

NBAS 検査中の母親の反応として、全員の母親が児の検査の状況を見つめ、さまざまな反応や態度を示した。

症例 1：視聴覚刺激による方位反応の中で母親の参加をさせたところ、母親の声掛けに対し児が反応した事で喜びを表していた。又、検査者が行った児の反応をみて「見えているんですね」、「聞こえているんですね」と感動と満足を表明していた。

症例 2：ある母親は児に対する関心を示し、妊娠中に読んだ本を引用して胎児の指しゃぶりや足底の刺激と反応の関連などについて話し、子供の発達への理解を示した。又、児の頬を触りながら、「赤ちゃんには接触が大切なんですよね」、「授乳時、時々目で追ってきたりしているようで、私の顔も見えているんですね」など発言していた。

症例 3：検査中、何度も「関心の声」を上げ、児の反応に感激した母親は「次の授乳時には言われた距離で声を掛けてみます」と母子相互作用のためのより適切な舞台づくりに思いをはせていた。

評価の前半は児の表情や反応に無関心で積極的な参加行動を示さない母親もいたが、評価の進行とともに関心を示した。自ら児を抱き感覚刺激に対する児の反応に喜びをあらわしていた。

以上のように、NBAS を利用した介入により、母親は新生児の能力や個性を知り、また新生児の行動やストレスサインを知ることにより、母親はよりふさわしい感覚刺激を準備できるようになり、母子相互作用は更に高まるのではないかと考えられた。

### <まとめ>

正常な成熟児に NBAS を実施し、母子相互作用の強化に役立つことがわかった。

また、米国ではアルコールや麻薬感染の新生児が 10 人に 1 人の割合で出生すると聞かすが、このような頽廢的環境因子に基づく障害児が多発する傾向にある現代社会において発達障害児発生予防の観点からも NBAS を介したハイ・リスク児への早期介入が発達促進に役立つのではないかと思われた。

### 文 献

- 1) T. BERRY BRAZELTON : NEONATAL BEHAVIORAL ASSESSMENT SCALE, PHILADELPHIA, 1984
- 2) 穠山富太郎, 川口幸義, 山口和正, 川崎千里訳 : ブラゼルトンの新生児行動評価, 医歯薬出版株式会社, 東京, 1988
- 3) 穠山富太郎, 川口幸義訳 : 赤ちゃんと家族のための新生児行動評価, ニシキ印刷株式会社, 長崎, 1989
- 4) 加藤忠明, 高橋悦二郎, 網野武博, 丸尾あき子, 湯川礼子, 萩原英敏 : 新生児期から生後 24 か月までの健康な幼児の発達, 厚生省心身障害児研究昭和 62 年度研究報告書, 83-88, 1987
- 5) 加藤忠明, 高橋悦二郎, 網野武博, 丸尾あき子, 湯川礼子, 平山亮 : 生後 36 か月までの健康な幼児の発達, 厚生省心身障害児研究昭和 63 年度研究報告書, 159-166, 1989
- 6) 穠山富太郎, 川崎千里, 鶴崎俊哉, 大城昌平, 草野美根子, 谷川美保子, 大島吉英, 千住秀明 : A D F の新生児行動評価と縦断的発達研究, 長崎大学医療技術短期大学紀要 1989 ; 3 : 1-12
- 7) 加藤忠明, Brazelton : 新生児行動評価法の実際, 周産期医学 13 : 1911-1914 ; 1983

草野美根子他

- 8) 草野美根子：ブラセルトンの新生児行動  
評価を用いて一検査時の母親の反応につい  
て一. 日本助産学会誌 3(2):84-85 ;  
1990

(1990年12月28日受理)